発行月（1/1・4/1・7/1・10/1）

樫の木だより

2019 1/1
第94号

ひとり ひとり ひかる

きぼう

発行：樫の木福祉会（法人本部）
かしの木の会
一宮市冨田字砂原 2147
Tel/Fax　0586-63-2111　/　61-1200

樫の木福祉会　ホームページ
http：www.kasinoki.jp/

新春のお喜びを
申し上げます

会員の皆様方には、輝かしい
新年をお迎えのことと心から
お喜び申し上げます。

新年のごあいさつ

新年おめでとうございます。

昨年のチャイブ夏祭りは天候不順により残念ながら中止いたしましたが、他の樫の木運動会やかしの木フェスティバル等はすべて天候に恵まれ盛大に開催することができました。これもかしの木の会員はじめ地域の方々など多くの方々のご支援、ご協力の賜と心から厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は新しいグループホームを建設するとともに、社会福祉法改正による新しい社会福祉法人組織として歩き出した一年でした。しかしながら支援員の人材確保、新規利用者の確保と法人の安定経営の課題については、まだまだ道半ばであります。

国では、「働き方改革」が検討され、定年延長制や多様な働き方が検討されています。人口減少社会がますます進展していくなか、元気な人にはいつまでも働いていただくことが要請されています。働く元気をお持ちの方は、是非樫の木社会福祉法人へご一報いただきたく存じます。

また、福祉事業主も社会福祉法人のみならず、NPO や株式会社も参入できるようになりました。このことは、利用者にとっては多様なサービスを選択できるようになりとても喜ばしいことです。一方、法人にとっては、まさに福祉サービス競争時代を迎えることになり気を引き締めて法人運営に努めなければなりません。

関係各位の旧倍のご支援、ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

樫の木福祉会理事長　北川　登

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

日頃、会員の皆様には熱心に会活動に取り組んでいただき心より感謝申し上げます。

昨年６月には一宮ジュニアウィンドオーケストラの皆さんをお招きし、生演奏を地域の方々と共に味わうことができ、楽しいコンサートとなりました。

１０月の施設見学、滋賀県甲賀市の「やまなみ工房」さんは利用者さん一人一人の個性を尊重した支援に心揺さぶられ、まさに目から鱗とはこのことで、障がいのある方の生き方をもう一度見直してみる良い機会をいただきました。１１月には学習会を開催しました。かしの木の里管理者 野崎貴詞氏をお招きし「親心の記録」と題してお話ししていただきました。親亡き後の障がいのある我が子の人生をいかにより良くするか！支援してくださる方々への我が子の記録の必要性を痛切に感じました。また、会活動の始まりから継続している手芸製作もかしの木の会の大事な収益活動で、ボランティアさんも長年参加して下さり地道に続いております。

昨年は一歩止まって「考える年」でした。障がいのある人達が地域の中で普通に暮らすために取り組んできた私達の活動も、親御さんの高齢化等で継続が難しくなってきました。８月に活動会員さん対象に今後の活動についてのアンケートをお願いしました。「どの活動も必要なこと」と理解はしても「活動の縮小、見直しはやむを得ない」等々。貴重なご意見を多々いただきました。今後の会活動をどのようにしていったら良いのか、真剣に考えていきたいと思っております。

最後になりましたが皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

かしの木の会
会長　小塚　峰子

地域コーナー

「第１８回

かしの木フェスティバル」

晴天のもと、第 18 回かしの木フェスティバルを、11 月 11 日（日）に盛大に開催させていただきました。日時が変更されたのは、木曽川河川敷等の駐車場の確保を考えての事であったのですが、逆にシャトルバスで送迎するメイン駐車場の確保に困りました。幸い、一宮市立起小学校のグランドを駐車場にと、教育委員会、学校長のご配慮で、晴天に限って使用をさせていただくことなりました。本当にありがたかったです。

今回から、樫の木福祉会が主催となり、かしの木の会は協賛という形で運営がスタートしました。しかし、長年共催関係でフェスティバルを盛り上げて来た経験上、保護者の方々に頼らざるを得ないところが何カ所かありました。たいへん助かりましたし、改めて保護者の方々の力強さを感じました。

私自身、実行委員長という任を受けて、2 年目ですが、今回は変更点が多く、戸惑ってばかりいました。それでも、当日は幸いシャトルバスによって、多くの方々にご来場いただきました。

開会式では、中野一宮市長をはじめ多くの県・市議会議員の方々や福祉関係者の方々からお言葉をいただきました。また、衆議院議員の長坂代議士、岡本代議士にもお忙しい中足を運んでいただきました。

そして、地域の方々、ボランティアの方々もふくめ、1500 人を超える方々が、冨田山グランドの会場をうめつくし、多々な模擬店や、ステージのコンサートなどのアトラクションを楽しんでいただいたと思います。

私自身が不安で緊張する中、準備から後片付けまで多くの保護者、ボランティアの方々、そして実行委員を中心とする職員ともども、多くの方の協力していただきました。

私は、このフェスティバルが無事終了して、やり遂げた満足感を得ることができました。さらに、私自身も樫の木福祉会の職員として、フェスティバル開催にあたっての目的でもある「つなごうてとて、ひろげようみんなのわ」を今後も続けていけるよう、どんどんこういった地域交流の場を提供して、多くの方々に福祉に携わっていただけるよう力を尽くしていきたと強く感じました。そして来年度もかしの木フェスティバルは開催されますので、皆様のご来場をお待ちしております。

実行委員長　仙石　靖徳

事業所コーナー　①

樫の木作業所　どんぐり

樫の木作業所では「どんぐり」という作業室があり、そこでクッキーを作っています。

昨年度より、材料や焼き方に工夫を凝らしながら風味と食感、そしてパッケージをリニューアルしてきました。

クッキーの大きさを今までの ４ｃｍ丸から2.5ｃｍ丸を増やしたり、新作の味も増やしてきました。

購入されたお客様より「美味しい」「食べやすい」「見た目が可愛い」といった嬉しいお言葉をいただいております。また、わがんせパンと一緒に学校販売を行っており、学生さんからは「クッキーもう無いの～」と好評をいただいております。

期間限定ではありますが、卵や小麦粉などのアレルギー対応として米粉を使用したクッキーも開発、販売してきました。

こちらも、より多くの皆様に周知し、良い評価をいただけるよう努力していきたいと思っています。

そして何よりも利用者の方がクッキーの製作に多く関わり、責任とやりがいを持って意欲的に作業に取り組めるようにしていきたいと思います。「楽しく」「笑顔」をモットーに、いろいろなアイデアを出し合い、日々、試行錯誤と改良の努力をし続けたいです。

「どんぐり」のクッキーに関するご意見やご感想もお聞かせいただけましたら幸いです。より多くの方に「どんぐりクッキー」を知っていただき、お客様、利用者、職員のみんなが笑顔になれますように。

樫の木作業所　森茉侑加

＜GHC　かしの木＞　のスタート

今年度、消防法の改正により新しいグループホームが開所してから　９か月が過ぎようとしています。利用者の皆さんも新しい生活になれ、楽しく過ごされています。

さて、樫の木福祉会のグループホームは３つの共同生活援助事業からできています。この３つの事業所は､GHC はぎわら､GHC びさい、GHC やまとです。

その内訳として、GHC はぎわらは、「こぶしの家」「みずきの家」「あおきの家」「あざみの家」「ふくぎの家」「ポプラの家」「けやきの家」の７ホームの事業所です。定員は２６名です。GHC びさいは､「さつきの家」「かえでの家」「はすみの家」「かりんの家」の４ホームの事業所です。定員は１８名です。GHC やまとは「オリーブの家」「はなももの家」「あやめの家」「なつめの家」の４ホームです。定員は２０名です。また､「オリーブの家」と「はなももの家」には２名ずつの短期入所の居室があります。合わせると定員は６４名と短期入所４名の事業所になっています。

平成１８年の５月１日より産声を上げた｢こぶしの家」から 13 年を経過しました。自分らしく、楽しく、上手に、逞しく暮らしていくことを目標に利用者、スタッフ、法人と一丸となって駆け抜けてきました。

そして、より多くの方々から更なる躍進を求める声があります。その声にこたえるためにも、どうしていけばよいのか。職員の不足等昨今の求人の難しさ等乗り越えるためにも検討を重ねました。職員不足の解消、職員の質の向上、運営のバランス等利用者さんの現在の生活の質の向上と皆さまからの期待に応えるために、平成３０年１０月　１日より、３つの共同生活援助の事業所を統合し「ＧＨＣかしの木」となりました。このことにより、それぞれの事業所が今までよりも広い範囲で考え、実践することがしやすくなります。また、急なスタッフの休みがあった時にも対応しやすくなりました。様々な課題についてはスタッフ一丸となって取りかかる思いです。

グループホームの統合については、年度途中ということもあり関係者の方々にも十分に周知できなかったことをお詫びするのと同時にこの機会に知っていただき、変わらないご支援をお願いしたいと思います。

ＧＨＣかしの木管理者　武田　信之

法人コーナー　①

平成３０年度木曽川高等学校
吹奏楽部演奏会について

一口に吹奏楽と申しますが、ひとつひとつの楽器には、それぞれ固有のアイデンティティ（人格的なもの）があります。

にもかかわらず、それらのやんちゃな楽器たち~~（演奏者を含む）~~は、楽譜などに導かれながら、己れのパートを徐々に自覚しつつ、目くるめく共同作業に参画していきます。そして、１つの楽曲が見事に創造されます。

今年の木曽川高等学校吹奏楽部演奏会は、９月２９日（土）同校体育館にて午前１０時３０分から１１時３０分まで開催されました。

めいめい移動車両が到着しますと、保護者の皆さまによる交通整理ボランティアのお出迎えがありました。本当に頭が下がります。

当日は、日常的に馴染みのある、どこかで聴いたことがある曲から、少し真面目で格好良い曲まで、コミカルな演出を交えたバランスの取れた素晴らしいステージングを披露していただきました。

演奏が超一級であることは言うまでもありません。単一の方向に束ねられた音の群れは耳管を通り、時には穏やかに、時には躍動的に、私は音楽という海の中に、身体全体を委ね、心地よく揺らせ時を楽しみました。

ある利用者さんの感想文です。

「楽器を使ってこういう事もできるんだなと、凄く綺麗な音が出ているんだなと思いました。凄く楽しかったです。私は、来年も木曽川高校に行きたいです。お兄さん、お姉さん頑張ってください。」

そして以下は、

木曽川高校吹奏楽部の生徒さんからの感想です。

- 「毎年、利用者の方々の笑顔を見るのが大好き　　です。私たちの演奏で、こんなにも笑顔になってくれるんだと思うと、演奏にも熱が入ります。」

- 「どうやったら盛り上がってくれるのか、という構成を考えて演奏会を組み立てました。皆さん盛り上がってくれて良かったです。」

- 「最初遠慮がちな皆さんが、だんだん笑顔になってくれたのが印象深かったです。
一緒に手拍子したり踊ったりして楽しんでくれてありがとうございました。」

- 「私は福祉に興味を持っています。この演奏を通じて、障害を持った方々と交流することが楽しくなりました。将来、特別支援学校の教員になろうと強く思うことができました。」

- 「自分たちの音楽が、人を楽しませることができるという自信になりました。
ありがとうございました。」

木曽川高等学校吹奏楽部の皆さん、毎年私たち樫の木福祉会を演奏会に招待していただき心から感謝しています。

これからもずっとずっと、かけがえのないご縁を大切にしていきたいと願っています。

文責　法人本部事務局　橋本

かしの木の会

やまなみ工房を見学して

昨年１０月３日、滋賀県甲賀市にある「やまなみ工房」に施設見学に行ってきました。

やまなみ工房は、広い敷地にカフェや作業棟が点在する、ゆったりとした空間でした。カフェの隣がギャラリーで、利用者さんのたくさんの作品を自由に見る事ができました。

アトリエでは、利用者さん一人ひとりに大きな机があって、その前でとても真剣に、とても楽しそうに作業をしてみえました。大きな紙に自分の好きな道具で好きな物を心ゆくまで書いている人、粘土で小さなお地蔵さんをいくつも作る人、ボタンをひたすら縫い付ける人、清掃活動が一番好きだという人等々、一人ひとり違った活動でした。また、その日の気分で何もしないで過ごす事もあるそうです。

１９８６年に施設を開設された頃は下請け作業をしてみえたそうですが、１９９０年から様々な表現活動に取り組むようになられたそうです。利用者さんは６つのグループに分かれて、自分の好きな事を自分のペースで行い、生きがいや充実感を感じられるように活動されています。

施設長の山下さんは、『その人の希望をかなえ、その人らしく過ごす事を尊重し、あるがままの彼らの心が喜びと楽しみで満たされ、それぞれの幸せに向かう事が何よりも重要である』と書いておられます。利用者さんの幸せのために、その人の表現方法を時間をかけて見つけ、その環境を整え、彼らが穏やかに過ごせるように気を配る、職員さん達の深い愛情を感じました。利用者さんに寄り添う職員さんの眼差しがとても優しく、一緒にいる私たちも幸せな気持ちになりました。

そうして作られた彼らの作品はその価値が認められ、いろいろな所で展示されています。海外で展覧会が開催されたり、文化芸術活動として国や行政から支援を受けているそうで、とても驚きました。

同じような活動がどこでもできるとは思いませんが、利用者さんに対する職員さんの姿勢は、親の私たちの子供に対する姿勢と重なって、反省させられました。我が子の幸せな事って何だろう、と考えています。

研修委員会　道家

かしの木の会

平成 30 年度かしの木の会親睦会

漫遊記①

雨でした。しかし、いつも通りあいにくの雨と言っていいのだろうか。

本年度も、かしの木の会親睦会が開催されました。

平成 30 年 9 月 20 日（木）、行先は滋賀県米原市多和田の「ローザンベリー多和田」です。

「ローザンベリー」というのは、「薔薇とベリー（ブルーベリー、ストロベリーのような果実）」という意味だそうです。

参加者は、保護者が 18 人、北川理事長、橋本局長、森次長、鈴木照（総会第 3 部講師）さん、ボランティアさん 2 人でした。

さて、天気は雨でしたが、参加者の気持ちはとても晴れやかでした。

晴れの天気は、私たちをアクティブにさせ、アウトドアでの活動を促します。

雨天は、落ち着いた気分にさせるが、自分自身を内省するチャンスを与えます。

冨田字砂原から、一宮市の福祉バスに乗車し、名神高速（途中トイレ休憩）を通って、約 1 時間半で目的地に到着しました。

この前の大きな台風で、「ローザンベリー多和田」も大きな被害（倒木樹木多数）を被ったそうです。

まずは、腹ごしらえです。

バイキング形式の料理が私たちの食欲をそそり、ついつい普段以上のカロリーを摂取してしまいました。

でも大丈夫、夕食を控えるから！

ここの敷地は横長で、ブドウ、薔薇などの果実や植物がたくさん見られます。また、羊とふれあえるいろんな広場があります。

土木関係の会社が、山を切り開いて造ったそうです。

バスの車中やバイキング食堂の中では、参加者（保護者）の皆さんは、鈴木照さんと親しく意見交換されていました。

また、北川理事長、橋本局長、森次長に対し、時には穏やかに、ときにはストレートに質問が向けられ、普段あまり知らない情報も聞けたとか聞けなかったとか？

有志の皆さんが、プチ旅行を兼ねて美味しいものを食べに行くことが、親睦会の主な目的ではありません。

むしろ、同じ志を持った会員さん、支援者（又はボランティア）及び法人代表者と出会い、意見交換し、親睦を深め、言葉に置き換えられない収穫物を持って帰ることこそ、この行事のメインテーマであると考えます。

また、来年度も親睦会を開催したいですね。

お互いの息災を祈らずにいられない気持ちで、三々五々解散しました。

ありがとうございました。

H30. 9. 20

かしの木の会親睦会実行委員長　　高松　勉

かしの木の会

赤い羽根共同募金

10 月 7 日(日)、一宮市共同募金委員会主催の赤い羽根街頭募金活動がありました。

旧尾西地区では４か所で行われ、樫の木福祉会とかしの木の会は、スーパー三心三条店さんの店頭で参加させていただきました。

自主的に参加された三条小学校と尾西第一中学校の生徒さんと共に、買い物客の皆様にお声をかけさせていただきました。

大勢の方々が募金して下さり、あたたかいお心にふれることができ、心より感謝申しあげます。ありがとうございました。

かしの木の会　小塚峰子

「ふくしのつどい」が開催されました。

平成３０年１２月４日（日）に第１３回「ふくしのつどい」が例年通り尾西商工会館および駐車場にて開催された。

これを主催運営するのは「一宮市尾西ボランティア連絡会」であり、一宮市に合併する前から尾西市社協を拠点に活動していたボランティアグループである。一宮市合併後も、会員の方々はこの行事を続けようと、制約が厳しくなる中、手弁当で集まり、企画し、運営している。

商工会館３階で行われた開会式では、来賓挨拶の後に地元の小学生が書いた福祉作文の発表を行った。その後のステージでは、マジック、フラダンス、大正琴など幾多のサークル発表を行って場を盛り上げた。かしの木の会のバザーもこの会場にコーナーをいただき販売をした。２階の体験コーナーは、手話や点字の実践体験の場。

駐車場では、イオンフードサプライの弁当、ＣｏＣｏ壱番屋カレー、ラーメン、ぜんざい、綿菓子などの模擬店がお客を迎えていた。

ボランティア連絡会の「心気」がこもったこの行事も、運営する連絡会の方々の高齢化と後継者不足で来年の開催が心配である。また毎年一宮市から借りる、テントやテーブル、いすの準備、片付けの人手に困っている。樫の木福祉会としては、日頃お世話になっている方々への恩返しの意味で、お手伝いをかって出ています。

ふくしのつどいの日は、雨の特異日なのか、今年も、雨で模擬店のテントが濡れた。来場の衆議院議員等多くの議員さん方も傘をさしながらの、模擬店利用である。

存続が危ぶまれる中、今年の「ふくしのつどい」が、最後の雨にならないことを祈る。

事務局　只井秀明

お知らせコーナー

【　行事予定　１月～３月　】

平成３０年度　樫の木交流会

日時・・１月２６日（土）18：00～

場所・・尾西グリーンプラザ